

議会報告会報告書

開催日時	平成30年2月22日（木）午後1時30分 終了：午後3時5分	
開催場所	白山市民交流センター 4階 AV講義室	
対象団体	白山市各種団体女性連絡協議会	
参加人数	31人	
班構成	C班	池元 勝 南 清人 石地宜一 小川義昭 安田竹司 寺越和洋 清水芳文
役割分担	司会・挨拶：寺越和洋 報告：議会改革／清水芳文、総務企画／安田竹司、文教福祉／池元 勝 産業建設／南 清人、特別委員会／石地宜一	

（質問1）

能登は断水で大変苦勞されていた。その原因となったのが空き家で、水道の元栓を閉めておけば防げたということを知った。白山市ではそのような問題や話は出なかったのか。

（答 弁）

白山ろく地域ではそういう地区が何カ所かあった。その地区ではその家を空き家だと思っておらず、1人暮らしの高齢者がたまたま入院しているとか、空き家になっているがたまに帰ってくるなど、地区でも把握できない難しい問題もある。今回のことをよい教訓として、今から取り組んでいかなければいけないということを痛感したところである。

（質問2）

昨年から今年にかけて防災についての講演会に出席した。講演会では、私も初めて知ったが、森本富樫断層が舟岡山のほうまで続いていると聞いた。また、地震発生の危険度はSランク、阪神淡路大震災の発生確率と規模もほぼ同じぐらいだろうと話していた。参加した人は地元の人なのにそういうことを全く知らない人が多く、自分の足元の危険をわかっていないのではないかという不安を感じた。ハザードマップなどはもらっているが、中身をわかっているようには思えないので、周知の方法をどのように考えているのか。

（答 弁）

周知することは必要だと感じている。説明会を開催しても関心がある人は来るが、関心のない人は来ないので、結局知らずに終わっているのが実態だと思う。そういう人たちにどのように周知していくかはこれからの課題として取り組んでいきたい。

（答 弁）

森本富樫断層のことで、手取川ダムが決壊した場合や白山が噴火した場合はどうなるのかということと、そのシミュレーションも明示してほしいと一般質問したことがあり、今後は国・県と調整して対応していくということだった。今言われたとおり、どのように周知していくのかということはこれからの課題だと思っている。

（答 弁）

地元の人が自分の置かれている立場を理解していないというのはその通りだと思う。これからは各地域の自主防災組織にも周知していく必要があると思っている。最近では地区や町内会単位で防災訓練もしており、執行部とも相談しながらそういうところにも周知して、そこから個々の家庭に周知するというようなこともこれから大切なことだと思う。

(質問3)

県からの指導方針で女性防災士を増やし、さらに2倍にするという計画があると聞いている。避難所の運営に際して地区でシミュレーションをしたいと思っても、その地区の中で横のつながりがなく、どの人が防災士、担当なのか全然わからない。何かしようとしても、やはり何人かで集まって力を合わせていかないと各町会で何かをしてくださいと言われても活動できることは限られてしまう。女性防災士をうまく活用する方法、システムをつくってほしい。いくら情熱があっても何もできず、そのうち情熱が失われていってしまうのが現状ではないかと思う。

(答 弁)

その地区だけの問題ではなく、そういう態勢ができていないため、市全体でも同じようなことが起きていると思っている。おそらく災害が起きてから3日から1週間は行政も手を入れることはできない。そうした場合、自分の命は自分で守る、次に家族そして地域になる。行政がしなければいけないこともあるが、町内会における自主防災組織がしっかりと機能することが1番だと思う。議会としても今聞いたことは執行部に対して要請していくが、やはり自分たちの地域は自分たちで守るという意味でもしっかりとした防災組織をつくることをお願いしたい。

(質問4)

避難所の備品が市のほうから校区ごとに置いてあるそうだが、その中身を個人では教えてもらえない。これは市のホームページに載っているのか。置いてある災害備品は市の財産なので、やはり公にすべきだと思う。それを見て各町内会で何が必要なのかということを考えたいと思っている。

(答 弁)

市のホームページには載っていないと思う。議会として執行部のほうに伝え、どこまで情報を出せるのか、地区での話し合いの場をもってもらえるように進めていきたい。

(質問5)

地区に調整池があり、大雨が降った場合はそこに水が一旦溜まって、それからはけていく感じになっている。日ごろは入ってはいけないということで金網がされているが、今回の大雪で雪捨て場がないために、調整池に山のように捨ててある。そこは雪捨て場として使ってもいいのか。

(答 弁)

緊急の場合は使ってもいい。

(質問6)

1メートル以上の柵がしてあるので、行政がショベルカーか何かで捨てないと私たちではとても捨てることができない。また、捨てていいのであれば、誰が緊急と判断し、管理をすることになるのか。

(答 弁)

市の雪捨て場としては6箇所、今回の大雪で新たに3箇所を開設した。明確な雪捨て場としてはそうなっているので、正式な許可ではないかもしれないが確認したい。

(質問7)

北陸鉄道のバスには乗るが、コミュニティバスは不便なので乗ったことがない。白山市は広いので無理があることも承知しているが、やはり使えるようなバス、乗りたくなるようなバスしないと、ただ空のバスが走っているだけでもったいない。道の駅にもコミュニティバスが通るようだが、その辺もよく考えて運行してほしい。

(答 弁)

毎年、運行時間等の見直しはしているが、一人一人の要望に応じていけないのが現状である。

(質問8)

外部団体になるかもしれないが、お世話になっている健康クラブの講師の定年が60歳で、嘱託で1年間ということなので61歳になったため新しい講師がきた。この長寿化社会に60歳、61歳の定年というのは時代に逆行していると思っている。このようなお世話をしている人たちの待遇の向上をお願いしたい。

(答 弁)

市の職員も再任用という形で延長している。常任委員会の中で執行部と話をしたい。

(質問9)

高齢者の事故が続いて免許証の自主返納がいわれ、いずれは私も免許証を返納する時がくると思っている。返納をしたらタクシー乗車券やバスの回数券がもらえると聞いているが、それは一時的なもので後々のことを考えると不安になる。もう少し便利になるように取り組んでほしい。

(答 弁)

県内でも返納した支援事業で1番充実しているのが白山市になる。また、高齢者に限るがコミュニティバスを無料にしようとか、予算の許す限り少しずつ取り組んでいる。未来永劫というのは難しいと思うが、皆さんの声は伝えている。

(質問10)

年々子育てに関する予算が削られていると聞いている。大事な子どもたちなので、そういうところの予算は増やす方向でお願いしたい。

(答 弁)

少子高齢化の中で人口減が危機問題になっている。高齢者への事業の予算も大事ではあるが、むしろこれから支えてくれる子どもたちに対しての予算を充実していくことが大事ではないかと思っている。

(質問11)

子どもの貧困という話を聞いて、各女連でもこども食堂に関心を持って活動していこうとしている。今年は社会福祉協議会のほうの事業に参加させていただいたが、このまま事業を継続していくために議会としても応援してほしい。

(答 弁)

これは予算というより、応援しているボランティアの方々が多く出てもらえれば子ども

たちもこども食堂に参加すると思う。市としては逆に期待している。

(答 弁)

こども食堂というネーミングが一般的な捉え方として、貧困の家庭、お子さんというイメージが強く、名称をどうするかということも検討されている。市としては、継続して実施してほしいということが最大のお願いということで、どういう形でもいいので取り組みを始めていただきたいということと、継続してほしいということを言っている。

備 考	
-----	--